

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・宿泊客は伸び悩んでいるが、レストラン利用客が前月に続き前年同月を上回り、また宴会の利用客も増加している。全体としては前年を若干上回っている。
		競輪場（職員）	お客様の様子	・3か月前と比較して、1人当たり売上単価は変わらないが、正月興行に加え、グレードの高いレースが開催されたため入場者、売上高共に35%の大幅増加となった。
	変わらない	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・店全体の売上は前年割れの状態が続いている。来客数減少の影響もあるが、1人当たり買上点数の落ち込みが特に大きい。また、近隣百貨店の売上も前年を下回っている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・ガソリンの値上げからほぼ3か月が経過し、客は高値にも慣れてきた。また値上げしたラーメンなどでは安売り機会が少なくなった反面、別の商品が動いており、全体として大きな変化はない。
		スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数は前年の92%、客単価は同100%である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価は低下しているが、来客数は前年に比べ変わっていない。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・テレビの販売は引き続き好調であるが、パソコンは不振である。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・サラリーマン世帯の所得は残業のカットやボーナスの縮小などで明らかに減少している。家計ではガソリン価格の高騰に加え、先の見えない景気動向を考慮して更に引き締めているため、車の売行きは低迷している。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新型車の投入が目立った前年の勢いがそのまま続くことを期待して新年を迎えたが、燃料高や株安の影響から、受注状況は厳しい。特に、高排気量のワゴンやRV車の受注不振が目立ち、収益も悪化している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・企業も学校も1月7日からの始業が多く、年始は好調に動いたが、成人の日の連休以降はやや低調に推移している。売上は客単価の落ち込みが見られないため、ほぼ横ばいで推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・雪があまり降らなかったことや、客が年末年始にお金を使ったせいで、夜の街は平日だけでなく、週末もタクシー利用が少なかった。新年会の開催も例年を下回っている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・ケーブルテレビが提供するインターネット契約は、ADSLサービスからの乗換えを含め堅実な増加傾向が続いている。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の新機種が発売されたが、必要な客は12月中に購入しており、今月は停滞している。	
	その他レジャー施設（職員）	単価の動き	・相変わらず、飲食や物販などすべてにおいて前年同月に比べ客単価は下落している。ただ、雪の影響で落ち込みを心配していた来客数は優待券や特別価格設定により前年実績は維持できた。	
やや悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街での出店のスピードが退店のスピードに追い付けない。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・客は価格が安くても、商品選びのチェックポイントを増やしており、余分なものは消費しない。店内の滞在時間も短くなっている。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・初売りの福袋は縁起物という考え方から、従来、客は中身を確認しなかったが、今年は中身を見てから購入する客が目立った。また、バーゲン品は再値下げの時期に入っているが、客は必要な物以外は買わないという態度を続けている。	
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・衣料品やホームセンターの売上は前年を上回っているが、内容的には12月に売れなかった季節商材が売れただけで、決して良くない。また、来客数はそれなりに増えているが、客単価は前年に比べかなり低下している。	

	スーパー（営業担当）	単価の動き	・灯油、ガソリンなどの高値推移や小麦、大豆などの値上げから、客はより安い商品を探して買い回りをしており、消費の落ち込みが一層進んでいる。
	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・例年の正月明けは1万円札での買物が多いため、釣りの千円札や5千円札を相当用意しているが、今年は1万円札が少なく、釣りの紙幣が余った。売上は微減であるが、客の財布には1万円札が少ないように見受けられた。また、収納代行業務の件数はかなり増えているが、ついで買いは逆に減っている。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・諸物価の値上がり、世界的株安、サブプライムローン問題などが消費者心理を冷やし、来客数も減少している。
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・原油高騰、食料品値上げなど家計を圧迫する要因が根深く、客の財布のひもはまだ固い。チラシの特価商材でも慎重に検討するなど、なかなか即決してもらえない。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・販売数量が前年に比べ大幅に減少している。また、受注ペースも前年比で後れを取っている。
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・ガソリン高騰の影響が続いている。先行きに対する不安から、客は必要な時に必要な物しか購入しない。
	その他専門店【医薬品】（営業担当）	来客数の動き	・3か月前の既存店の来客数は前年比103%であったが、今月は同101%と落ち込んでいる。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・12月の忘年会シーズンも苦戦を強いられたが、年明けの新年会シーズンは更に厳しかった。特に地元団体の利用が激減した。一方、単価が低い他社の和食新店の大部屋は予約が困難なほど活気がある。
	旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	・各旅行代理店の販売が振るわず、大手代理店でも業務の縮小が見られる。また、原油高による諸物価の値上がりから旅館などのサービス低下が心配である。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今年は積雪が少なく、足場が良かったため、タクシーの利用は少なかった。また、最近では会社関係の出張者のタクシー利用が減少している。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・個人客の利用が前年に比べ少ない。特にマイカーによる来客数が少ないが、ガソリン値上げの影響と思われる。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・正月明けは客足も順調だったが、中旬、下旬になるにつれ、前年を大きく割り込んできた。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・ローコスト住宅向けの展示場の来場者は横ばいであるが、高級注文住宅展示場の来場者は大幅な減少を見せている。
	住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・住宅は低価格帯の物件が中心となり、利益水準も低く、厳しい状況が続いている。
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・高額商品の売行きが落ちている。常連客でも、値段には厳しくなってきた。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・初売り以降、足場は良かったが、寒い日が少なかったため、ジャケットやコートなどの重衣料が苦戦した。大型イベントの特別招待会では客の1点買いが目立ち、コーディネート販売ができなかったことから、売上は前年の74%と大苦戦した。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・原材料高騰による影響を商品売価へ転嫁しないよう努力しているが、1人当たり買上点数は増加するものの、1品単価は下落し、集客にもつながらない。客が高単価の衣料品関連の支出を抑えたことや新規競争店が出店したことが響いている。
	住関連専門店（店長）	販売量の動き	・昨年来の不況に加え、住宅着工の確認申請の遅れも重なり、来客数、販売量共に大幅に減少している。
	その他専門店【酒】（経営者）	来客数の動き	・今年は雪がほとんどなく、足場が良かったため、客足がショッピングセンターなどへ向いており、当店への来客数がかなり減少している。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数は例年より少なく、前年の9割弱であった。新年早々の株価暴落や諸物価の値上げなど、先行きに対する不安感が客の中に広がっている。
	パチンコ店（店員）	販売量の動き	・客の店内滞在時間が少なくなった。
企業動向	良くなっている	-	-

関連	やや良くなっている			
	変わらない			
	やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先では販売苦戦から3月末の在庫水準を圧縮する動きがあり、受注面での量的縮小が懸念される。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・納品先や競合他社等からの情報では、既存の一般眼鏡店の販売量や来客数は、中国商品をメインで扱う低価格量販チェーン店等の影響を受け、かなり落ち込んでいる。
		輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・軽油だけでなく、ほとんどの商品価格が上がってきており、経費が増えている。しかし、運賃に転嫁できないため利益が出せない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・最近の株式市場、為替市場の動きを見て、取引先から警戒感を示す発言が聞かれる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・住宅着工件数の低下や流通業界の伸び悩みなどから、折込チラシの出稿が減少している。
		司法書士	取引先の様子	・会社設立、新規事業への融資などの案件がほとんどない。
	悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・特売時の1回当たり販売数量が落ちてきている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・年度末を控え、受注量確保のため、受注価格競争が激化している。加えて、建設資材の上昇による工事原価がアップし、採算確保が一段と厳しさを増している。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・質の高い需要に対して、それに対応できる人材を確保できず、契約がなかなか成立しない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣社員の求人数は前年に比べ減少傾向にあるものの、おおむね堅調に推移している。しかし、人材の確保が依然として厳しく、求人広告の効果もあまり期待できない。派遣社員の確保が難しいためか、自社内で人材の見直しをする企業が目に付いてきた。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べ、情報誌1回当たりの求人社数が平均40件ほど減っている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・ここ数年、問い合わせがほとんど見られなかった雇用調整助成金に関する相談が相次いだ。
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿量は前年同月に比べ2割以上減少している。	